

日本のスペイン語の授業で仲介能力をどのように養うか
第 171 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2024 年 6 月 2 日 (日) 10:30 - 12:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1407 教室

担当：江澤照美

La formación de la persona mediadora en el aula de E/LE en Japón

CLXXI Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Domingo, 2 de junio de 2024

Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1407

Moderadora: Terumi Ezawa

今回のワークショップの主旨は、CEFR 増補版で記述が詳細化された仲介能力の育成のために、日本のスペイン語教育の場でできることを参加者間で共有することにあつた。

言語学習者は言語情報や知識の受容・表出・やりとりの各能力を身につけていく過程で仲介能力も習得する。CEFR 増補版は仲介能力と他の能力との関係性を明らかにし、仲介能力の能力記述文および仲介活動や仲介のストラテジーの例を提示した。以後、スペインの E/LE 教育界でも仲介能力の研究が進みつつある。

担当者は 2024 年 2 月に開催された TADESKA 恒例の「スペイン語教師のつどい」でパネリストとして参加した際に、CEFR 増補版が提示した仲介活動の概要を紹介したが、今回のワークショップの charla では、2 月に言及しなかった仲介のストラテジーの記述を参加者間の意見交換促進に利用した。

Charla ではその他に、2024 年から評価基準が変わり仲介能力が問われることになった DELE の C レベルの試験や担当者が視聴した EDELSA 社主催のウェビナーの概要を紹介した。EDELSA 社は E/LE 教材としては初めて仲介能力をコンセプトとしたテキスト *En plural* を開発・刊行したばかりであり、しかも CEFR A1-A2 レベルの教育モデルを提示している点が非常に興味深い。仲介能力は通常中上級レベルの語学能力を持つ者が有する能力と考えられているからである。ワークショップ実施時点で当該テキスト未入手であったので、仲介能力育成を視野にいれた E/LE テキストが入門レベルで展開するシラバスの一部についてウェビナーの紹介を参考にして、担当者が紹介した。

Charla のあとグループ活動をおこなった。題目は「日本のスペイン語の授業で仲介能力をどのように養うか」である。日本の教育機関でスペイン語教育を受ける学習者の大半は大学で第二外国語として週 1 回ないしは 2 回の授業を受講する。その学習も 1 年ないしは 2 年で終了するため、多くの学生の語学レベルは CEFR の pre-A1 から A2 程度である。

このような学習環境では目標言語で通訳や翻訳ができるレベルには到達しづらい。しかし、CEFR 増補版が定義する仲介能力の能力記述文では Pre-A1 こそ利用できるものはないが、A1 以降は能力記述文が存在する。初級レベルでの仲介能力は複数の相手と不完全ながらもコミュニケーションをとるための力であり、自分以外の他者どうしをつなげる、あるいは自身もつながるための力でもある。このことから、教師側も通訳・翻訳に限定せずに仲介能力を捉え直すことが求められている。

CEFR 増補版で仲介活動は *mediar textos / mediar conceptos / mediar la comunicación* の3つに大別されているため、それぞれの観点から望ましい活動や教師として意識すべきことについてグループごとに意見交換をしてもらい、最後に全体に発表してもらい認識を共有した。

ワークショップ全体としては Charla に関連した質疑応答に少し時間を取られ、グループ間の話し合いのための時間があまり多く取れなかったことや意見の整理が十分できなかったのは担当者の不手際による。しかし、その全容把握や理解に時間がかかったことから考えても、CEFR が世に出た今世紀初頭の時点では十分に定義されていなかった仲介能力の分析は、思いのほか容易ではないというのが現時点での担当者の見解である。